新学習指導要領に対応した学習評価
（中学校　総合的な学習の時間）

文部科学省
初等中等教育局
教育課程課教科調査官　渋谷　一典

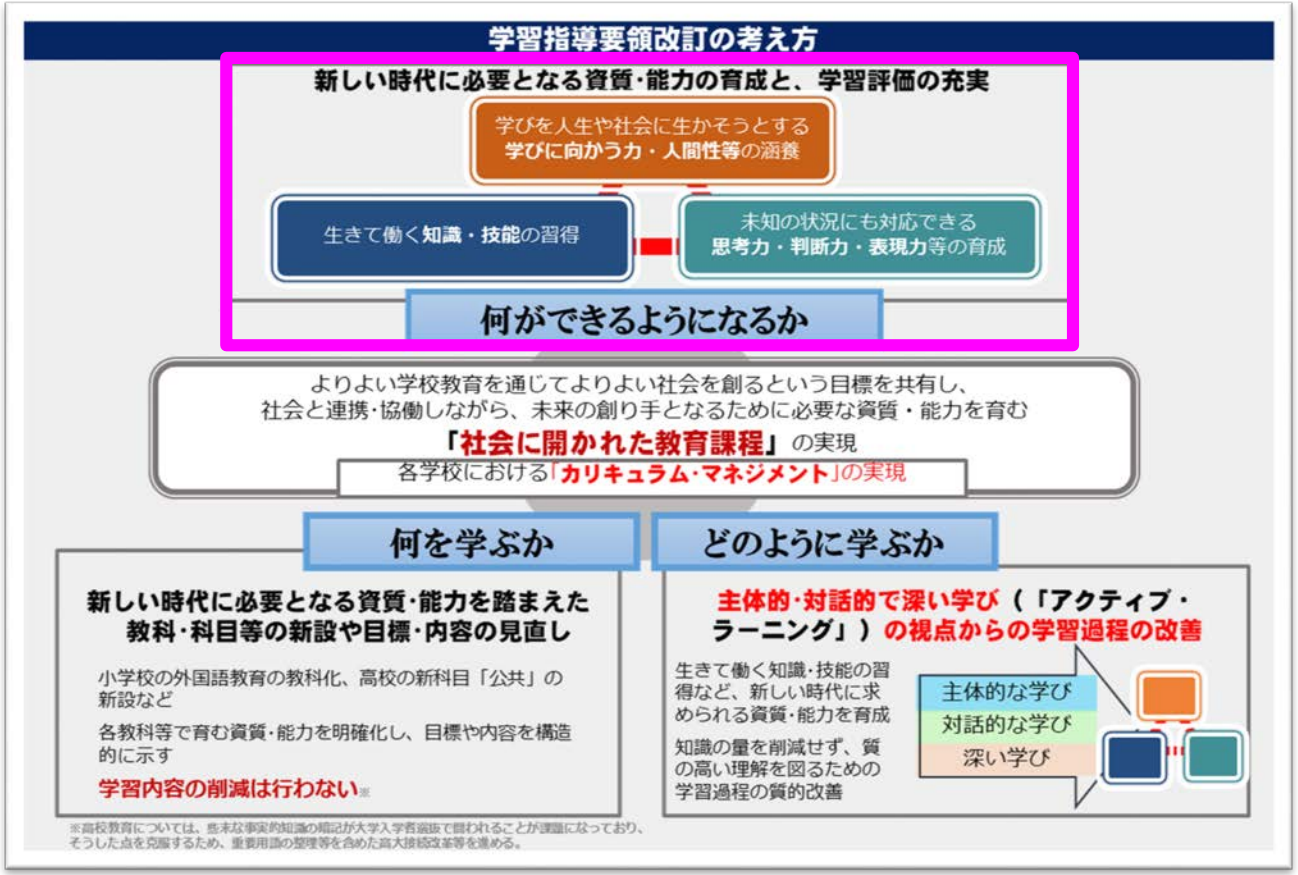
目次

1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力

2. 学習評価の進め方

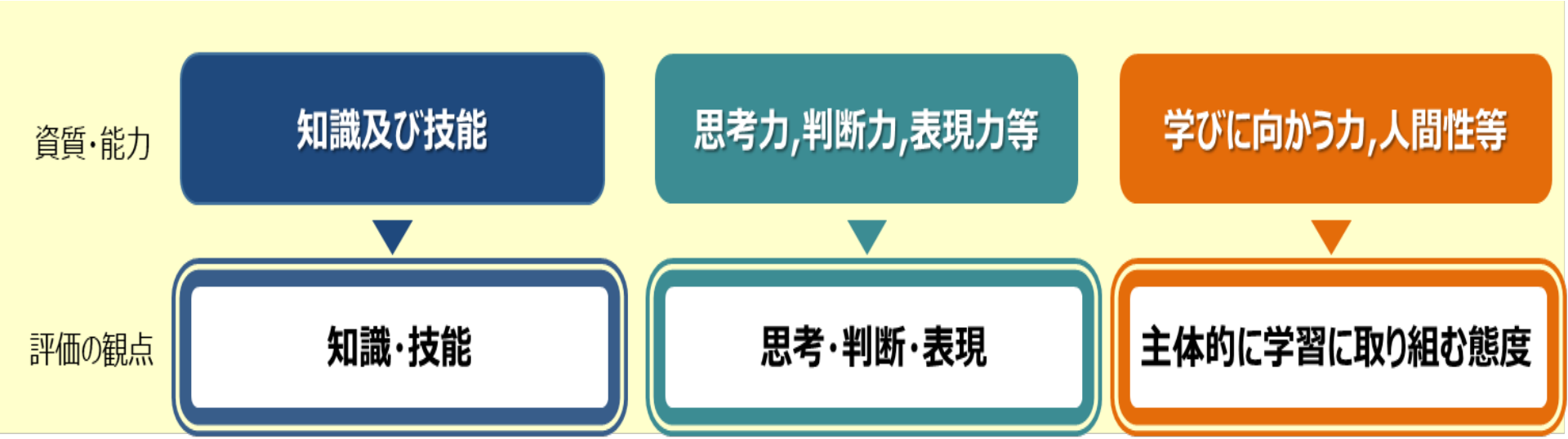
3. 評価規準の作成のポイント

1．総合的な学習の時間で育成する資質・能力



何を知っているか
から
知っていることを使って
何ができるようになるか
を重視

１．総合的な学習の時間で育成する資質・能力



１．総合的な学習の時間で育成する資質・能力

総合的な学習の時間の評価の観点及びその趣旨

＜中学校　総合的な学習の時間の記録＞

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識や技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとしている。

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」の別紙５から
（平成31年3月29日）

1．総合的な学習の時間で育成する資質・能力

従前の評価の観点の例示とその考え方

【総合的な学習の時間の目標（第１の目標）を踏まえた評価の観点の例】

第１　目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。

観点例	よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的，創造的，協同的に取り組む態度	自己の生き方

第1の目標を踏まえたもの

【学習指導要領に示された視点（第３の１(4)）を踏まえた評価の観点の例】

第３の１(4)

育てようとする資質や能力及び態度については，例えば，学習方法に関すること，自分自身に関すること，他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。

観点例	課題設定の力（学習方法）	情報収集の力（学習方法）	将来設計の力（自分自身）	社会参画の力（他者や社会との関わり）

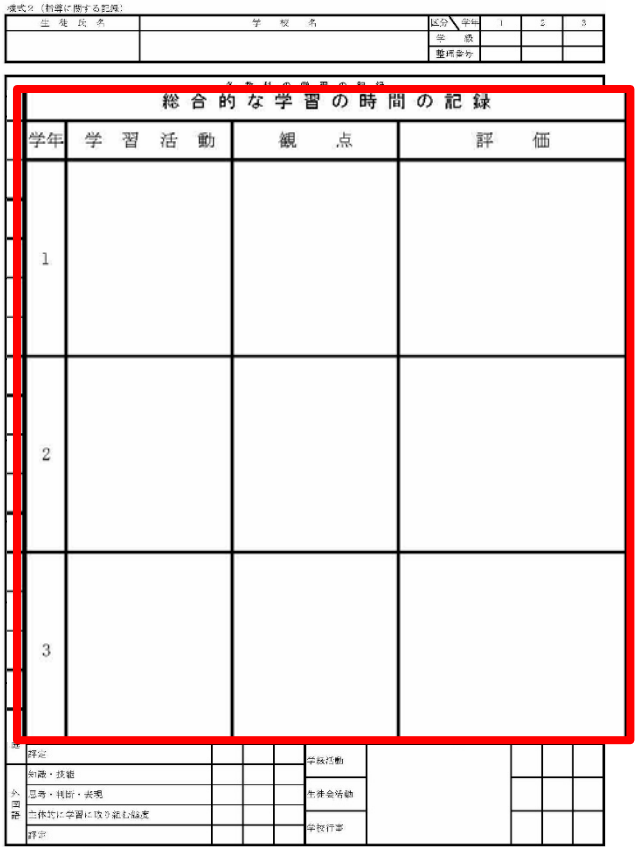
学習指導要領に示された視点を踏まえたもの

【各教科の観点との関連を明確にした評価の観点の例】

観点例	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

各教科の観点との関連を明確にしたもの

１．総合的な学習の時間で育成する資質・能力


様式２（指導に関する記録）

生徒氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3
		学級			
		整理番号			

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
1			
2			
3			

評定				学校活動				
知識・技能				生徒会活動				
思考・判断・表現								
主体的に学習に取り組む態度								
評定				学校行事				

学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で，それらの観点のうち，生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等，生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

各学校は，学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標（第４章第１）及び学校教育目標を踏まえ，総合的な学習の時間の目標を定める。そして，この「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を示した内容を設定。この目標と内容に基づいた観点を設定することになる。

観点の設定に当たっては，探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について，学習指導要領に示された三つの事項に配慮

1．総合的な学習の時間で育成する資質・能力

総合的な学習の時間　第1の目標

探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方を示す部分（柱文）

① 探究的な見方・考え方を働かせる
② 横断的・総合的な学習を行う
③ よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていく

育成することを目指す資質・能力を示す部分

(1)「知識及び技能」
(2)「思考力，判断力，表現力等」
(3)「学びに向かう力，人間性等」

1．総合的な学習の時間で育成する資質・能力

目標の改善

① 「探究的な見方・考え方」を働かせ，総合的・横断的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すことを明確化

② 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう，各学校における教育目標を踏まえて設定

内容の改善①

「目標を実現するにふさわしい探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定

内容の改善②

他教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け，実社会・実生活の中で総合的に活用

内容の改善③

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成

2．学習評価の進め方

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①エネルギーの問題について，資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること，生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。 ②地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。 ③エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって，自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。	①電気エネルギーを生み出すための発電について，何をどのように調べるか見通しをもって活動計画書を作成している。 ②多様な発電方法について，その仕組みや特徴に関する情報を，幅広く効率的に収集している。 ③自分でできる節電方法について，それぞれのメリット・デメリットを明らかにしたうえで，取り組むことの優先順位を決めている。 ④エネルギー問題の解決方法について，結論に対する根拠を明らかにして，自分の考えを主張している。	①エネルギーに関する問題について，調べたことの中から伝えたいことを明確にして，新聞を作成しようとしている。 ②太陽光発電が増えることの是非について，異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。 ③アンケートの結果から，これからの社会を視野に入れ，節電の取組を地域に継続的に働きかけようとしている。

単元の目標
様々な発電方法を調査したり電力消費量を減らすための活動に取り組んだりすることを通して，自分たちの暮らしは環境に負荷を与えたり，限りある資源の消費の上で成り立っていることを理解するとともに，電力消費量を抑えるための実現可能な方法を探し求め，未来の豊かな暮らしを守るために行動できるようにする。

以下の４つの要素を構造的に配列して作成
- 単元において中心となる**対象や活動**
- 単元において重視する**「知識及び技能」**
- 単元において重視する**「思考力，判断力，表現力等」**
- 単元において重視する**「学びに向かう力,人間性等」**

2．学習評価の進め方

指導と評価の計画

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1　豊かな暮らしの背景にあるエネルギー問題について考えよう。(15)	・エネルギーに関する問題を出し合い，解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。		①		・発言 ・計画書
	・電気に焦点を絞り，様々な発電方法の仕組みや特徴について調べる。		②		・ワークシート
	・社会見学を通して，化石エネルギーや再生可能エネルギーを利用した発電の意義について考え，学んだことを新聞にまとめる。			①	・新聞
2　エネルギー問題の解決に向けて，自分たちができる取組について考えよう。(25)	・太陽光発電施設の見学や，太陽光発電の設置業者にインタビューを行い，太陽光発電のメリット・デメリットを議論する。 **具体的事例❸「主体的に学習に取り組む態度②」** ・太陽光発電や再生可能エネルギーについて，身近な地域や実際の現場での調査を行い，情報を収集する。			②	・振り返りカード
	・エネルギーの自給自足に取り組む人の話を聞き，自分たちができる効果的な節電方法について考える。(私の節電ベスト３) **具体的事例❷「思考・判断・表現③」**		③		・「私の節電ベスト３」シート
	・節電に対する意識を地域に広げ，多くの人に節電に取り組んでもらうために，地域が一斉に消灯する活動を企画し実行する。	②			・節電企画シート
	・活動に対する地域アンケートを行い，集計結果をもとに，活動の有効性を見つめ直す。			③	・活動報告書
3　取組を振り返	・海外の電力事情（フランス・ドイツなど）を比		④		・主張文

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①エネルギーの問題について，資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること，生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。 ②地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。 ③エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって，自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。	①電気エネルギーを生み出すための発電について，何をどのように調べるか見通しをもって活動計画書を作成している。 ②多様な発電方法について，その仕組みや特徴に関する情報を，幅広く効率的に収集している。 ③自分でできる節電方法について，それぞれのメリット・デメリットを明らかにしたうえで，取り組むことの優先順位を決めている。 ④エネルギー問題の解決方法について，結論に対する根拠を明らかにして，自分の考えを主張している。	①エネルギーに関する問題について，調べたことの中から伝えたいことを明確にして，新聞を作成しようとしている。 ②太陽光発電が増えることの是非について，異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。 ③アンケートの結果から，これからの社会を視野に入れ，節電の取組を地域に継続的に働きかけようとしている。

3．評価規準の作成のポイント　(1)「知識・技能」

観点	知識・技能
評価規準	①エネルギーの問題について，資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること，生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。 ②地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。 ③エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって，自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。

①概念的な知識の獲得
②自在に活用することが可能な技能の獲得
③探究的な学習のよさの理解

① 事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している生徒の姿を評価規準として設定。ここでは、有限性等に関する概念的な知識の獲得として評価規準を設定

② 技能が特定の場面や状況だけではなく、日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付いているか、具体的には技能がいつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの生徒の姿を評価規準として設定

③ 探究的な学習のよさの理解として，資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解しているなどの生徒の姿を評価規準として設定。ここでは、学習と有限性とのつながりの理解として評価規準を設定

3．評価規準の作成のポイント　⑵「思考・判断・表現」

思考・判断・表現
①電気エネルギーを生み出すための発電について，何をどのように調べるか見通しをもって活動計画書を作成している。
②多様な発電方法について，その仕組みや特徴に関する情報を，幅広く効率的に収集している。
③自分でできる節電方法について，それぞれのメリット・デメリットを明らかにしたうえで，取り組むことの優先順位を決めている。
④エネルギー問題の解決方法について，結論に対する根拠を明らかにして，自分の考えを主張している。

「①課題の設定」，「②情報の収集」，「③整理・分析」，「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力を生徒の姿として示し，評価規準を作成

①　課題の設定
実社会や実生活に広がっている複雑な問題に向き合って、自らの力で解決の方向を明らかにし、見通しをもって計画的に取り組むことができるようになることを期待。例えば，「複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する」「解決の方法や手順を考え，確かな見通しをもって計画を立てる」などの視点による設定が考えられる。

②　情報の収集
情報収集の手段を意図的・計画的に用いたり、解決の過程や結果を見通したりして、多様で効率的な情報収集が行われるようになることを期待。例えば，「情報を効率的に収集する手段を選択する」「必要な情報を多様な方法で収集し，種類に合わせて蓄積する」などの視点による設定が考えられる。

③　整理・分析
収集した情報を取捨選択すること、情報の傾向を見付けること、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見出すことなどができるようになることを期待。例えば、「異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする」「事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ」などの視点による設定が考えられる。

④　まとめ・表現
整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること、振り返ることで対象や自分自身に対する理解が深まることなどを期待。例えば，「相手や目的に応じて効果的な表現をする」「学習を振り返り，自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす」などの視点による設定が考えられる。

3．評価規準の作成のポイント　⑶「主体的に学習に取り組む態度」

主体的に学習に取り組む態度
①エネルギーに関する問題について，調べたことの中から伝えたいことを明確にして，新聞を作成しようとしている。
②太陽光発電が増えることの是非について，異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。
③アンケートの結果から，これからの社会を視野に入れ，節電の取組を地域に継続的に働きかけようとしている。

自他を尊重する「①自己理解・他者理解」
自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」
未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」
などについて育成される資質・能力を生徒の姿として示して，評価規準を作成

① **「自己理解・他者理解」**については、例えば、「自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする」「異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする」などの視点による設定が考えられる。事例では、再生可能エネルギー等を利用した発電の意義についてまとめる場面にこの評価規準を設定している。

② **「主体性・協働性」**については、例えば、「自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む」「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む」などの視点による設定が考えられる。事例では、太陽光発電施設の見学や，太陽光発電の設置業者にインタビューを行い，太陽光発電のメリット・デメリットを議論する場面にこの評価規準を設定している。

③ **「将来展望・社会参画」**については、例えば、「自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける」「実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む」などの視点による設定が考えられる。事例では、エネルギーの自給自足に取り組む人の話を聞き，自分たちができる効果的な節電方法について考える場面にこの評価規準を設定している。

新学習指導要領に対応した学習評価
（中学校　総合的な学習の時間）

文部科学省
初等中等教育局
教育課程課教科調査官　渋谷　一典

ご静聴、ありがとうございました。